



下五島地区 小学生合同黙想会 (2018. 7. 16 福江教会にて)

島のひかり ホームページアドレス  
<http://lifeaidgoto.jpn.cx/simanohikari/>



発行

カトリック浦頭教会  
 広報委員会  
 五島市平蔵町2716  
 TEL 0959-00072  
 印刷・(株)才津印刷所

### 奇跡について

—あなたは奇跡を

信じますか—

主任司祭 小瀬良 明

#### 奇跡について(4の3)

あなたは奇跡を信じますか

記述  
 画霊 (聖霊と悪霊) に関する

聖書は聖霊と悪霊とを生きた存在として取り扱っている。日本の社会では幽霊という言葉が使われているが、これは聖書が述べている霊とは質の異なるものである。

また、精神的な障害をお持ちの方と聖書に述べられている悪霊につかれた人とは症状的に類似点があるようだが、根本的に異なるものである。つまり、悪霊はイエスが神の子であることを知っており、そのことを言葉をもって語っているからである。

「二人は大声で神の子よ、わたしたちをどうしようというのですか：わたしたちを苦しめよ

うとしてここに来られたのですか」(マタイ8の29)などと表現されている。

A—I 聖霊に関する記述

(a)主の使いが夢に現われ、マリアの胎の子は聖霊によるものであると告げる。

(b)イエスが洗礼を受けられると神の霊が鳩の姿で下った。

A—II 神の使いとしての記述

(a)主のみ使いがエジプトにいるヨゼフの夢に現われる。

(b)主のみ使いがザカリアに現われる。

(c)一人のおとめのもとに一人のみ使いがブリエルが神から遣わされる。

(d)イエスの復活の時、主のみ使いが現われる。

(e)主の使いがペトロを牢から救う。

(f)主の使いは苦難に会うパウロを勇気づける。

## 聖ドミニコ(霊名) 小瀬良神父様のお祝い

八月五日は、神父様の霊名のお祝いが行なわれた。

前もって、霊的花束を信徒全戸に配布し、神父様のためにお祈りと犠牲を実施した。



八月五日、二番ミサに於いて小瀬良神父様の霊名のミサが行なわれた。ミサ後にお祝いの式があり、花束と霊的花束が神父様に手渡された。

お祝いの言葉は、小教区評議会書記の入口信さんからの心を込めた素晴らしい挨拶でした。



ちょうどこの日は、聖母被昇

天祭を迎える為の教会清掃と草刈り作業が午前中実施された。

この日も例年にならない猛暑の中、体調を崩す者もなく、神の恵を感じることが出来た。

夕方には、神羊館に於いて祝賀会が行なわれた。

この会場も冷房設備が無いため、汗だくだくの祝賀会となった。皆さん暑さに耐え、頑張っ

てビールでノドを潤しながらの会であった。  
これからの神父様の御健康を祈ります。

## 中村長八神父様の 生涯を追って ⑥

ブラジルの信徒は、中村神父の高潔な人柄に触れ、この偉大な日本人司祭と出会う喜びを表わす証言を幾つも残しています。ここで彼の当時の姿を現わす幾つかの証言を上げてみます。

両親が広島出身の移民で、サンパウロで洗礼を受けたアンジェロ伴木師の記憶。

「中村神父は馬に乗って家までやって来ました。恐ろしく粗末でした。継ぎの当ったスータンを着ていました。非常に穏やかでここにこ笑い、魅力的な愛想のよい人でした。ゆっくりとした遅い歩みでした。賢く穏やかな人でした。慎重なしゃべり方でした。信頼と敬意を抱かせる人でした。」

福岡県出身の平山マツユキさんの証言。

「彼が訪問する時は、六十キログラムもあるミサ典書や石の祭壇、その他のミサ用品を入れたトランクと、私物を入れたト

ランクを持ち歩いていました。

一つの家族から他の家族へと、ほとんどいつも十kmやそれ以上の巨大な距離をたった一人で歩いて行ったりしていました。多くの場合、彼は人里離れた淋しい場所の戸外で一人で寝なければなりません。ある時には、目を覚ますと巨大な蛇がトランクに巻きついていました。彼はそれを見て、ミサの典書や道具を入れたトランクを守る守護の天使にそれが見えたそうです。」

彼はその生涯において、いつも信徒を訪れるのをやめませんでした。

サンパウロで一九四五年に司祭に叙階されたノルベルト・マサル近藤師が中村神父に「あなたはいっ休まれるのですか。」と質問したところ、彼はラテン語で『パラディソで、パラディソで』と答えたそうです。パラディソとは天国のことです。それは死ぬまで、神様の為、隣人愛の為に働くという意味が表わされています。

## 小学生合同黙想会 に参加して

7月16日(月)

六年 白濱 結羽

今日は暑い暑い黙想会の中で、マルマン神父とペルー神父様が行ったことをシスター木口が色々とお話してくれて、私が知らないことばかりでした。マルマン神父様やペルー神父様は堂崎教会、浦頭教会を造ってくれたり、親に捨てられた子どもを育てたりと、そんけいすることばかりでした。神父様たちがいてくれなかったら、私たちはいまここで祈りもできないし、ミサもできなかつたことでしょう。私もやさしい心を持ち、こまっていたる人、苦しんでいる人々の役にたてるようまずはお祈りを心をこめてしたいと思います。



## 中学生合同黙想会

8月27日(月)

今回のテーマは「旅」。中村長八神父様はブラジルへ。マルマン、ペルー両神父様は日本へと旅が語られた後、歩くのがあたりまえの時代にタイムスリップ!! 浦頭から福江教会(4.5キロ)へGO!!

○暑いし途中雨が降るし、昔はもっと大変だったろうなあ。

一年 鍋内 玖<sup>くれ</sup>怜<sup>れ</sup>彩<sup>あ</sup>

○フランスから五島へ、苦労と喜びもいっぱい。ありがとう。

三年 白濱 光玖

○受け継がれた信仰をしっかり受け継いでいきたい。

三年 鍋内 凌空

○ひたすら歩きたいいつもとちがう黙想会。今日は、同じ思いをちょっとでもできて良かった。

三年 濱崎 沙也加

ただ歩くという事の大変さ、雨も降ればなおのこと。通り過ぎる車を見送りながら、黙々と歩きゴールした達成感。この体験は仲間と共に忘れられない人生の一ページとなったことでしょう。



下五島地区 中学生合同黙想会 (2018.8.27 福江教会にて)

## カテキスタ養成講座への 参加要望を受けて

浜崎 松一



評議会議長より、カテキスタ養成講座を受け取れとの要望がありました。明日にでも養護老人ホームにお世話になろうかと考えていた矢先です。すっかり記憶力も無くなり、物分かりも悪くなり、目も耳も悪くなって、体力も気力も衰えてきているのに要理を正しく理解し、正しく伝えることが出来るだろうか。このような状態で要望を受けるべきか、断わるべきか悩みました。しかし、尊敬する日野原重明先生の「キープ・オン・ゴーイング」(前に進み続けよう)の言葉に背中を押され、承諾した次第です。未知の世界で不安一杯ですが、努力してみますので、お祈りよろしくお祈り致します。



# 楽しかった侍者旅行

八月六日～七日の二日間、子ども達がとても楽しみにしていた侍者旅行に行かせていただきました。

西海パールシー、バイオパークと盛り沢山の内容で、暑さも心配でしたが、皆、無事で楽しい時間を過ごすことができました。お世話になった方々、お祈りして下さった皆様から感謝いたします。

(信仰教育委員会)

## 一年 きぐち せいじ

ぼくは、りんかちゃんたちとトランプをしたことが、いちばんたのしかったです。

すいぞくかんにいって、くらげをはじめてみて、すごいとおもいました。おさかなとでんわをしたのしかったです。

おふねにのってこわかったけど、たのしかったの

でうれしかったです。

## 二年 入口 えいと

ぼくは、海キララに行ったら大きなカメラがいてびっくりしました。ほかにも大きなエイやイルカがいました。

よるはバーベキューでした。ぼくは花火をするのがたのしかったです。



「海きらら」にて

たです。二日は朝ごはんをたべて長さきバイオパークに行きました。見たことがないどうぶつがいきました。さいごに「ゆめたうん」に行きました。アイスがおいしかったです。

らい年はどこにいくのかたのしみです。

## 二年 なべ内 みゆ

わたしは、じしゃりょこうで一ばんたのしかったのは、バイオパークです。

わたしが大きな犬とふれあえたのでとてもうれしかったです。犬がとてもかわいかったです。海きららでは海ガメが、わたしよりも大きくてびっくりしました。

九十九しまのふねにのれて、うれしかったです。とてもゆれてびっくりしました。らい年もたのしみです。とてもたのしいじしゃりょ行でした。

## 四年 木口 美海

私が、一番楽しかった事は、



バイオパークに行った事です。バイオパークに行くのは、初めてだったので、最初はエサやり体験ができるの知らなかった。で、実さい行ってみると、エサやり体験ができて楽しかったです。

ホテルでは、かれんちゃんと、みゆちゃんと、るいちゃんと、そうみちゃんと、まくら投げをして楽しかったです。

## 四年 小田 蒼海

私が、一番楽しかったことはバイオパークです。特に、犬や

ねこ、鳥とふれあったことです。私は、動物が大好きだったので最高の思い出になりました。

こんな最高の旅行ができたのは、神父様、保ご者の方々、バスの運転手さんのおかげです。ありがとうございました。



五年 鍋内 孝志

ぼくが、侍者旅行で楽しかったのは四つあって、一つ目は海きららです。海きららでは、大きな海ガメやクラゲやイルカなどがいて楽しかったです。

二つ目は、バイオパークで見たかったカピバラです。理由は、えさやりや、ふれあ



いができるからです。さわってみると毛がフサフサしているかと思っただけ、かたくてびっくりしました。

一匹のカピバラは、水あびをしていてかわいいなと思いましたが。他にはサルやフラミンゴやアライグマなどもかわいいと思えました。三つ目は、ホテルでバーベキューなどです。

バーベキューでは肉や塩おにぎりとかおいしかったです。

その後は、花火などもしてもきれいでした。ねる前は、空斗君といっしょにあそんで楽

しかったです。

四つ目は、ゆめサイトでの買い物です。ゲームセンターであったりして、とても楽しかったです。

今年の侍者旅行も、ものすごく楽しかったです。



## 平和のぼら保育園 運動会

9/22

長く伸びた秋雨前線の影響で雨続きの天気。運動会当日の予報も雨。

何とか雨も止んで開催出来ますようにと数日前から子供と一緒に祈りしていると、祈りが神様に届いたのか奇跡的に晴天に恵まれ、無事に運動会が開催されました。

次第に上昇する気温と一緒に子供達の演技、競技にも熱が入り、応援もヒートアップ。幼児の泣き声にほっこり。親子競技で子供に振り回される姿に大笑い。練習の成果を存分に発揮し、太鼓や踊りを披露する園児に送られる惜しみない拍手。全力でかけっこに挑む園児達に、全力で声援を送るじいちゃん、ばあちゃん。盛大な盛り上がりを見せてくれました。

可愛くも真剣な表情を見せる我が子に成長を感じながら、来年はどんな姿を見せてくれるのか楽しみにする運動会でした。

いつも子供達を指導して下さいる先生方に感謝します。ありがとうございました。

### 半泊教会 化粧直し



十月二十三日(日)午後一時より、壮年部研修会の一環として半泊教会の壁の塗装工事が行われた。潮風により壁の傷みが激しく、コケなども生えていた。半泊教会は宮川さんおひとりを守っておられるが、ご高齢でもある。ここは若者の出番とばかり壮年部が立ち上がった。約二十名の参加があり、刷毛塗りにて外壁の全てを塗り直した。見違えるほど綺麗になった。午後

四時頃までかかったとのこと。壮年部の皆様お疲れ様でした。



聖堂に入るとこれまでと違った雰囲気気づく。祭壇の後ろにステンドグラスが取り付けられている。赤・青・黄に彩られたステンドグラスが、陽のひかりを優しく美しいひかりに変え聖堂を包んでいる。これは橋口主任神父様任中、これまでのステンドグラスが台風により壊され、普通のすりガラスを取り付けていた。その後、岩崎神父様の許可を得て、崎浜宏美神父様を中心となり元に近い形で復元したとのこと。携わった方々に感謝致します。

### 野下千年神父様

### 突然の来訪

初代主任神父の野下神父様が九月三十日、二人のカトリック研究者を引率して、ひさしぶりに浦頭信徒の前で話しをなされました。

現在、引退されて長崎カトリックセンターに住まわれています。ミサの後には、庭に出られて、なつかしい顔を思い出しつつ、談話に花を咲かせていました。

### 嵯峨ノ島教会

### 100周年記念

十月八日、嵯峨ノ島教会が献堂して一〇〇年を経て、信徒及び教会出身者、各小教区主任司祭・各地区議長等、総勢七十名(八十名程が集まり、喜びを分かち合った。現教会は、男岳中腹にあり、二代目の教会になる。度々手入れが入った事もあり、新鮮な感じさえ受ける。

この日は祝いのミサの後、前庭で食事会も催された。

### おたより

何時も島のひかりをお送りいただき有り難うございます。

懐かしい故郷になってしまいました。皆様の信仰に生きた島のおかげで、皆様の記事を読ませていただきながら、故郷の皆さんが頑張っている姿に感動し励みを頂いております。

奥中のバレエ部頑張りましたね。女子バレエ部で、中体連に出場したことが思い出されました。それぞれにおかれた場所で、神様の導かれるままに信仰を生き続けられることに感謝です。

東京都板橋区

Srイラリア 浜辺恵美子

“ありがとう”

北九州市 九谷 ミチヨ 様  
長崎市 小島 和代 様



# 司祭団ソフトボール大会

秋晴れのさわやかな天候に恵まれた九月二十五日。司祭団ソフトボール大会が、中央公園多目的広場に於いて開催され、熱戦が繰り広げられた。

チーム数は四チームで、長崎Aチーム、長崎Bチーム、北松佐世保チーム、五島チームで試合が行なわれた。



ボールの行方は？

解説は、いつもながらの雄弁でおなじみの福江教会の中村神父様。神父様を拝見しても、どこの青年だろうか、どこの壮年だろうかと見間違える程、若さをみなぎらせている。

試合を見ていると珍プレーあり、好プレーありで応援する者も声援がヒートアップする。

特に、シスター方の応援にはビックリするやらで、楽しい一時を過ごした。

## 秘

## 跡

《永眠》

七月十四日

セシリア

西尾 悦子 五十歳

浦頭

八月二十三日

パウロ

鍋内 義文 五十六歳

南河原

九月十六日

ミカエル

大浦 喜市 九十六歳

浦頭

九月二十一日

マリア

本村 ヤエ子 九十歳

浦頭

十月四日

ヨハネ

川口 涼 八十二歳

浜泊

## 結婚

十月十四日

ペトロ木口

隆洋 浦頭

モニカ村崎

智美 富江

## 洗礼

十月七日

エリザベト

入口 ひろ子 堂崎

小さき花のテレジア

入口 蘭樹(父・龍馬

母・ひろ子)

モニカ

村崎 智美 富江

## 幼児洗礼

十月十四日

ペトロ 鍋内 優<sup>ゆ</sup>楽<sup>ら</sup>

(父・孝之 母・めぐみ)

ベルナデッタ 浦口 <sup>こころ</sup>心

(父・慶太 母・沙也香)

## ふるさとだよ

### ジビエ処理場オープン

九月三日、平成三十年雇用拡充支援事業の採択を受け、岐宿町唐船ノ浦にある三十数年前に廃校になって使われてなかった旧旭分校の校舎を改装して、島内で被害が拡大しているイノシシやシカ、有害鳥獣の捕獲後の動物を食肉として処理する事により、ゴミとして焼却されていた物を商品として加工して、焼却費用の軽減、狩猟者の後始末代行を行い、さらに五島市の特産物の創造が出来ればと約四年前、東京から奥浦町に移住した永田義次です。これからも地域の皆様の手助けが出来ますよう、日々努力致す所存であります。どうぞ、暖かい目で見て頂けますよう宜しく申し上げます。

奥浦町在住 永田 義次

### 供室 舞台は 久賀へ

世界遺産を記念して、奥浦地区子供教室は、牢屋の窄・旧五輪教会のある久賀島へ入島した。奥浦小の子供達とスタッフを含む大人、総勢十七名は九月八日、猛暑の夏が幾分やわらいだ天候をぬって、日本カトリックの象徴的な場所となった地を巡った。

子供達にとっては宗教的な意味合いもある殉教地は、少し難解だったと思われるが、自分達のふる里である五島に生まれた世界遺産。理解し、誇りにつけて欲しい。



旧五輪教会堂前にて

### 奥浦小・中 合同体育発表会

九月三十日に予定されていた小・中・町民合同の運動会は、台風24号接近のため中止となった。その為、十月十二日に学生だけの小・中合同の発表会となった。

当日は天候は良かったものの、北風で肌寒い中を元気一杯頑張る姿に感動を覚えた。将来、奥浦を背負う子ども達に声援を送ります。



### 編集後記

江口 初子

私は今、微力ながら50周年記念誌の編集に携わっている。それは「島のひかり」をベースに進められているのだが、再注目したい記事をみつけた。第189号で、大学講師の加藤久雄さんの「浦頭の牢屋跡」である。略文『明治元年九月、久賀から五島キリシタンの迫害が始まった。続いて厳寒のころ奥浦にも。留め置くスペースが足りないため、弱い婦人や子どもたちは放免となったが59名が五十畳位の牢に一ヶ月以上も。場所を変え数名は二年間も入牢。現在、その地は草が高く生い茂っている。岐宿・三井楽でも同様の迫害があった地が市の指定史跡にされ、このような繰り返すべきでない歴史を未来に伝えるため保護されている。このように明治初期の五島崩れの迫害を物語る重要な「史跡」はいつまでも大切にしていなくては五島キリシタンの信仰の遺産である』心に留めたい「今ぞ!!」と思う。